

ファッション歳時記 84

世界で最も高齢な ティーンエイジャー

マリ：アントワネットやモーツァルトが生きたロココ時代の貴族の肖像画を見ると、ほぼみな髪が白いんですね。男性はかつらをかぶり、女性は高く結い上げ、その上から、白い髪粉をふきつけて、男女とも白く輝く髪を誇っていました。

まだ白髪になっていない若い人までわざわざ白くしているのですが、いったいなぜそのようなことをしたのでしょうか？

社交の場面で、年齢差を暖

昧にするためです。現代であれば、若い人に合わせて白髪を染めるという発想になるのですが、当時のヨーロッパでは、高齢者の白髪に合わせて若い人まで白い髪にしていたようです。白い髪はロココのバステルカラーの服とも相性がよく、フランス革命前の優雅で軽やかな貴族社会のムードにも似合います。高齢者の白髪は、模倣したくなる美と憧れの基準。このよう

復活しています。プームの名は、グレイネサンス。グレイヘアとルネサンスを組み合わせた造語です。グレイネサンスを先導しているのは、白髪が美しいスタイリッシュな女性たちです。ドキュメンタリー映画「アドバンスト：スタイル」でも存在感を発揮した94歳のアイリス・アプフェル。ギネスブックに世界最高齢スーパームデルとして認定された90歳になるダフネセルフ。実業家イロン・マスクの母でもある70歳の

兆しが出てきています。

特筆すべきは、グレイネサンスを支持している中心世代が、20代〜30代であるということ。SNSで彼女たちをフォローする若い人のコメントを見ると、「こんな風に歳を重ねたい」「かつこよくて憧れる」という称赞の言葉が並びます。

20歳そこそこのモデルにはない彼女たちの魅力として、語るべきストーリーを持っているという点も挙げられます。長い人生を彩る喜怒哀楽の物語とその受け止め方、そして何歳であれ今この瞬間の自分を最高に表現するというその姿勢が、後に続く人々に生きるヒントを与えているのです。

英「ガーディアン」誌は最近、アイリス・アプフェルのインタビュー記事を掲載しましたが、彼女への質問のなかにこのようなものがありました。「どんな人として記憶されたいですか？」
アイリスの答えはこうでした。「世界でもっとも高齢なティーンエイジャー」

こんなユーモアで日々ファンを増やしていく彼女たちは、希望の星。「生産性」なんかなくなつて、ただその人らしく生きていくということが、後、続く人々への最高のプレゼントになっているのです。

なかの かおり

1962年生まれ、富山市出身。株式会社Kaori Nakano代表取締役。服飾史家・エッセイストとして研究・講演・執筆をおこなうほか企業の顧問教授をつとめる。東京大学大学院修了。英国ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授などを務めた。著書『紳士の名品50』（小学館）、『モードとエロスと資本』（集英社新書）ほか。監修した新刊『服を味方にすれば仕事はうまくいく』（デイスカヴァートゥエンティワン）が発売。

